

---

# 給食のおばちゃん。

にーとん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

給食のおばちゃん。

### 【Nコード】

N2425F

### 【作者名】

にーとん

### 【あらすじ】

給食のおばちゃんが現れた！おばちゃんは理不尽だ！！

僕はあまり給食は好きじゃない。

家で食べるときは、好きなおかずを好きなだけ食べれて、嫌いなのは食べなければいい。

ところが、給食は違う。

確かに残せばいいのかもしれないが、ちょっと調子に乗ってる奴らが食えよ。などと言ってくる。

そして一番うるさいのは・・・

「お残しは許しまへんてー！！！」と叫びながら入ってくるあの人のいつの時代だよ。といつもつつこみたくなる。

週に一度はクラスに来て、ちゃんと野菜も食えだとかこれは体にいいんだとか言ってくる。

そう、言わずと知れた給食のおばちゃんである。

そして今日は給食のおばちゃんの日なのだ。

四時間目終了後、僕らは手を洗って席に着く。

給食が配られるのをおとなしく待っていると、ドアが勢いよく開いた。

「お残しは許しまへんてー！！！」

「唾が飛ぶから叫ばないで下さい。」

おばちゃんは一瞬にしてきょとんとしてしまった。

ナイス、先生！と心の中で叫ぶ。

そう、冷たい言葉を発したのはうちのクラスの担任である。

「・・・今日のメニューは焼きそば、サラダ、豚汁、リンゴだよ！残さず食べるんだよ！！！」

おばちゃん立ち直ったな。

「叫ばないで下さい。」

相変わらずだな、先生。

先生もおばちゃんは嫌いらしい。

しかし．．僕はリンゴは嫌いだし、この手のサラダも好きじゃない。

そしてこの焼きそば．．なぜこんなに青のりが入ってる!?

そんなことを心の中で一つ一つつこんでいると、いつの間にかみんなが食べ始めていることに気づく。

食べるか。

僕はおばちゃんが栄養に関して色々言っているのを適当に聞き流しながらなんとか完食した。

おばちゃんがなんか近づいて来た。

「あんた、意外とよく食べるのね。」

僕が苦笑いすると、おばちゃんは叫んだ。

「あんた、齒に青のりがついてるわよ!!」

「焼きそばに青のり入れまくったの誰だよ!!」

やばい、あまりの理不尽さについていつつこんでしまった。

「唾が飛ぶから叫ばないでください、二人とも。」

「．．．すいません。」

僕まで怒られたよ、てかおばちゃんはなんで謝らないだよ。

それどころか僕のこと見て笑ってるよ、この人。

．．．ていうか、しらけた。

誰もしゃべらない。

僕らの方を見てるだけ。

僕は沈黙に耐えきれず、席に座った。

するとおばちゃんもそこらへんを見て回るようにうろろし始めた。

鐘が鳴る。給食が終わる。

今日の僕の苦痛はこれで終わったようだ。

そう思ったのに。

なんで．．．なんで、

「なんでここにおばちゃんがいるんですか!」

「若いのに細かいことを気にするんじゃないよ!!」

給食後、今は昼休み。

僕は健康にバスケットボールなんぞしていたのに・・・  
おばちゃんが僕の手からボールを奪ってダンクシュートを放ったのだ。

正直言ってびつくりした。ていうかあの人は何がしたいんだろう。

「野菜シュート!!」

・・・意味が分からない。

どうしよう、本当に。つつこみどころが満載すぎて困る。

鐘が鳴る。昼休みが終わる。

これで本当に今日の僕の苦痛は終わったようだ。

なんて油断したのが馬鹿だった。

なんで・・・なんで、

「なんでおばちゃんが板書してんですか!」

「唾が飛ぶから叫ぶんじゃないよ!!」

「あなたも叫んでるでしょう!?!」

本当にわけが分からない。

多分この後も僕の苦痛は続くのだろう。

勘弁してよ。

（後書き）

最後まで読んでもらえてうれしいです。

最後の締めがうまくいってない気がします。・ ・甘めに見て下さい。

完読して下さい、本当にありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2425f/>

---

給食のおばちゃん。

2011年1月1日02時35分発行